常磐毎日新聞

日刊

定價　一部金參錢　一ヶ月金九拾錢　郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本忠治
福島縣平市長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　（振替口座）東京四〇二一〇番

二月六日夕刊

天氣豫報

今晩は北東風雨又は雪明日は北西の晴一時曇

炭焼き部隊の青年
七百名を動員
一擧九百俵を生産
女子部は俵や繩を造る
材料は國有林の拂下げ

郡内第一の木炭生産地である上遠野、入遠野兩村青年團では齋藤上遠野校長、柚原入遠野校長の兩團長が全青年團員に呼びかけ來る十三日から三月末日までの間勞力奉仕によつて製炭事業を行ふ事になつたが林産物検査所平支所吉村技手の指導により入遠野村大字大平地内に四竈を築き團員延人員六百九十八名が出動築竈伐木、製炭、俵裝、搬出等分業作業により九百俵を生産する方針で既に材料は國有林の拂下げを了した

尚女子部百五十名は繩俵の製造に當る筈だが勤勞報國木炭增産運動の國策に副ふと同時に純益は青年團の活動資金にあてるといふ一石二鳥の名案である

補充兵の査閲
三月一日から開始

福島聯隊區司令部管下の未入營補充兵査閲は近く開始されるが平市及び石城郡下の日割は左の如く査閲科目は午前八時五十五分査閲場に集合、九時より宮城遙拜並に默禱、九時十分より閱兵及び着裝検査、九時二十八分より執銃、各個教練、十時二十分より戰鬪各個教練及び分隊戰鬪、十一時三十分より銃劍術、十二時二十分より分列、十二時四十分より學科、午後一時十分より賞狀及修了證書授與、講評、訓示で終了することになつてゐる

△三月一日川前校―川前△同日植田校―植田、田人、山田、渡邊、錦工場、川部、勿來礦、勿來
△三月二日小名濱校―小名濱、日本水素小名濱工場、江名、泉、玉川、鹿島、豊間
△三月三日湯本校―湯本、磐崎、内郷
△三月四日上遠野校―上遠野、入遠野
△三月五日入山炭礦運動場―入山、磐炭、小野田各炭礦
△三月六日好間校―好間、古河好間炭礦、三阪組合、永戸組合
△三月七日赤井校―赤井、小川、福島炭礦
△三月八日平第三校―平市第一、同第二、同第三、同第四、同第五、夏井、高久、飯野、神谷
△三月九日四倉校―四倉、大野、大浦、草野

慰問に感激し
銃後會寄附

平市新川町タイヤー商千葉慶治氏はこの程息子さんが前線で活躍してゐるので市役所から慰問されたのに感激今八日金五圓を市銃後奉公會に寄附した

磐中出身の磯上君戰死

磐崎村西

出身磯上孝治上等兵は中支戰線で壯烈な戰死を遂げられた旨この程實家に通知があつた

同上等兵は農業を營む龜吉さん（五九）の三男で磐城中學出身十一人兄弟で出征前迄東京で機械工として働いてゐた眞面目な青年だつた

植田武道
高點優勝者

既報武德會植田支部の武道寒稽古納會はこの程植田小學校で擧行されたが高點試合優勝者は左の如くである

（柔道）一等富岡國江、二等赤津義信、三等鈴木昭（劍道）五人拔村上正義、宮澤正澄、星康夫、中村清、山際軍一郎、澤田昇、古川金之助

歸還の一軍人が
車窓に託す義捐金
平驛員が感動

三日午後三時頃平驛に停車した列車の窓口からこれを靜岡の罹災民へ送つて下さいと驛員に新聞包を依頼した軍人があり發車後開けてみると現金六圓が在中して居つたので、この奇特な軍人の身許を調査の結果出身地はわからないが今六日酒井部隊鈴木與市上等兵で歸還の途中とわかつたので直ちに靜岡へ送つた

西洋料理
役員改選

平西洋料理業組合ではこの程臨時總會を開き役員を左の如く改選した

△組合長齋藤傳兵衛△副組合長菊地源松△會計小名川鶴千代△幹事森川泰一郎、福富啓、三浦彦一

南海の護り
水産報國に
勇躍する四倉
遠洋漁業の目論見

南海の護りと水産報國に勇躍する遠洋漁業陣容に十五年度本縣から更に一隻參加する計畫が四倉港で進められ、さきに建造され目下活躍中の小名濱の東日本丸並に本年度建造決定を見た同港小野晋平氏の遠洋船と併行して水産福島のため万丈の氣を吐いてゐる

同計畫は四倉漁業組合の幹部有志によつて立案され、東北興業會社と結んで百四十トン級三百馬力程度の頑強船を建造し南洋に乘り出さんとの目論見であるが、資材關係から建造の割高が唯一つの難點となつてゐる、東北興業會社では東北振興の母體會社としての建前から遠洋漁船に對しては會社で建造して貸付ける制度を實施してをり、六縣遠洋漁業は同社の援助によつて好成績を擧げつゝあり縣當局の保償問題さへ解決すれば南海進出計畫は簡單に纏まることになつてゐる

小名濱支局通信

東亞醫科大學
父兄會に臨む

支局長　小野務平

（一）

神戸港出帆後は九日朝門司に寄港し二夜支那海十一日午後二時青島港に就き十二日の開校式に間に合ふたとの通知に接し其後一二回の通信に依ると學校内容の不整備を鳴らして來て居るので子を思ふ親心で其實際を知らむ事に勉めて居た事は父兄たるものの當然心痛する處であらう、然るに一月上旬同大學の父兄會を組織せんと奔走して居る人があつた、東京麻布外科醫院長の金井博士であつた。

東京在住なるを以て斡旋の勞を取り各父兄に通知して二月三日東京神田五錦町學士會館で其父兄會を開催するから出席を願ふと云ふ書狀を入手するに至つた。

何事を差し置いてもこの父兄會に臨んで現地の様子を聞くのが何よりである處から三日午前六時二十八分泉發上り列車で上京した、十一時上野着の列車は遂に三十分も遲れ十二時近く到着したので急遽學士會館さして急いだ、學士會館の利用率は豪氣なもので此日の晝の會合が實に八組、夜に入つて更に八組と云ふ使用價値を示して居る、吾等の會合は二階西寄の西洋間で六間四面もあらうと云ふ會堂である、室内には百脚近い椅子がテーブルを圍んで會合に便利な構へが整ひ客待ち顔とでも云ふのだらう、然し僅かに二三人で時間前とは申せ心細さを感じた、待つ事二十分で父兄達がドヤ／＼と集合し來た定刻一時を過ぎ二十分近くに至つて七八十名の多數に集合を見たのである。

其處に現はれたのは世話人であつた、金井良太郎博士が會釋して各父兄と初面會の言葉を交はし六十分何れも着席するに至つた、東京側から議事の進行の上からと云ふので篠原と云ふ六十才前後の人が父兄會を開くに至つた顛末を述べ開會の挨拶となした、續いて一同起立して宮城遙拜、出征將士への一分間默禱と感謝を捧げ後座選擧に移り篠原氏の推選で金井博士の座長を承認し茲に父兄會は開かれた。

金井博士は心能く座長を引受け左之如き項目によつて挨拶をかねた説明をした。

一、東亞醫科大學の設立
二、同大學が開校の遲れたる理由
三、學費は幾ら掛るか
四、將來はどうなるか
五、徴兵猶豫の恩典はどうなるか

との各項は吾々父兄の共に問はんとする所であらうと思ふが故に此の項目から申上げて見ようと思ふと前提して先づ博士の立場から申述べた。

博士は創立者の一人で現在教授兼理事で財團法人たる方面に於て活動されて居る立場の人である上に長男良平君を入學せしめて居る處から其學校との關係は隨分親密の關係である事が判明する、そこで東亞新秩序の樹立を眼目として必要缺くべからざるものは疑面藥業の普及であつて茲に醫學の專攻が先驅となる必要から出發したのである處が其筋では昭和十四年一月二十一日に設立認可を握つて居ると其認可書を讀み上げ手續きに於て遺漏なきを證明して居る（續く）

記念切手を
平局も賣出す

今回遞信省では紀元二千六百年を記念として左記種類の郵便切手を發行平郵便局でも二月十一日より賣捌く、なほ記念スタンプも二月十一日より本年十二月末日まで押捺するが記念切手並に特殊日附印の圖案及意匠説明は左の通りである

一、二錢切手（赭黄色）
日本書記卷第三神武天皇即位前戊午年十有二月丙申の記事に依り金色靈鵄を描く

二、十錢切手甲（紅色）
同右書戊午年九月丹生之川に於ける故事に因み嚴と魚とを描き御海波を配す

三、特殊日附印八咫烏及瑞雲を描き左右に勾玉を配す

先生の病氣に
教え兒達が
大神宮へ日參
其効ひあつて全快退院

平第三小學校の六年四組受持田中重藏訓導は去る一月四日盲腸炎のため市内安齋外科醫院に入院されたが以來教子の佐分利和子さん以下一同は新川町の大神宮様へ日參平癒を祈願したこと判明關係者を感激せしめてゐる

尚田中訓導はこのかひあつて三日退院されたといふ

ツンポ婆さんが
汽車に刎飛さる
寄る邊なき身を踏切で
瀕死の重傷

湯本町三函無職田村チヨさん（六八）は五日午前十時三十分頃同町資海地内小野田炭礦專用線踏切を通行中折柄驀進して來た貨物列車にはね飛ばされ瀕死の重傷を負つた

目下入山炭礦病院で加療中だが同婆さんは耳が不自由な上に身寄もなく氣の毒な婆さんであると

本降りは
中旬後か

立春も過ぎて「雨毎に溫む」筈、けふの雨は續くかどうか小名濱測候所のお話を聽く

立春は暦によつて定められたものですし立春だからといつて氣象がどうのかうのとはいへません、今年は永い間降らないで乾き切つてゐるので例年に比べると平均溫度は低いのです、今は晝より夜の方がずつと長いわけですから晝の間太陽に溫められても乾燥してゐるので夜るになるとその熱がどん／＼逃げてしまふのです、雨は―今日邊から少々崩れはじめて漸く春の兆しが濃くなつてゆくわけですが本降りは中旬後のことでせう

遺家族に
十錢安で
木炭を配給

勿來町商業組合では舊正月の三、四の二日間軍人遺家族に一千俵の木炭を公定價格より十錢安で配給することになつた

舊正月の
通俗講演
小名濱から
順次各地に

本郡教育會第二方部では小名濱校を中心として年中行事の通俗講演會を開催する事に決定、小名濱校を振り出しに十二日午前八時より講師作山美八先生を聘して通俗講演乞ひ總て教育資料の活動映畫を上映し戰事氣分を鼓吹して眞の銃後の國民たるに相應はしい心構へを呼びかける筈其他日割左記の如くである

江名十二日午後、十三日鹿島、玉川、十四日泉、渡邊、十五日磐崎湯本

遺家族招待
學藝會
磐女校開催

磐城高等女學校では十一日出征將士の遺家族並に父兄を招待學藝會を催す

農事傳習
修得證授與

磐農試石城分場では十二日と三十日農事特別傳習會を開くが受習者へは修得證を授與する

平局懇談會

平郵便局の保險、年金兩事業に關する懇談會は今六日開かれた

銃後會寄附

四倉町々議漁業家長谷川酉次郎氏はこの程同町銃後奉公會へ金百圓を寄附した

大浦の慰問

大浦村狐塚國防婦人會では舊年末に當り五日部落内の出征入營勇士の遺家族に蜜柑その他を贈り慰問した

第三校寄附

平第三小學校の職員兒童一同は今六日恤兵金として十二圓五十錢を市役所へ寄託した

飯野義捐金

飯野村の各寺院では靜岡市罹災民にこの程金十圓を送つた

平市人事

出生

△下平窪字窪内七八目下茨城縣那珂郡靜村大字下大賀一六六八齋藤俊夫二男隆君

死亡

△鍛冶町二六目下勿來町大字關田字下四二慈俊氏二男横山透君（四）
△中平窪字古舘一文次郎氏養母五十嵐モヨさん（七四）

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間（新京より）お話とうた「お目出度う「萬壽節」」遠藤及毅、岩田聖子
▼後六、二五（新京より）講演「萬壽節の佳節に當りて」宮内府次長鹿兒島虎雄
▼後七、一〇　郷土に寄する言葉　讀賣新聞社編輯局長柴田勝衛
▼後七、三〇　國民歌謠
▼後七、四〇　講演「米國の對外貿易」水野伊太郎
▼後八、〇〇　連續講談「寛永三馬術」大島伯鶴
▼後八、三〇　ラヂオ時局讀本「休會明けの議會を繞りて」
▼後四、〇〇　青年の時間「見直せそして出直せ」高神覺昇
▼後九、〇〇　管絃樂

明日の部

▼前九、四五　幼兒の時間「オハナシトウタ」「ウメノオセック」聖美幼稚園兒
▼前一〇、〇〇　家庭メモ
▼前一〇、二〇　家庭の時間「母をまもれ」山田わか
▼前一一、〇〇　小學生の時間（尋三）綴方發表會「冬のお便り」宮城縣宮城郡根白小學校三年尾榮一郎外
▼後〇、〇五　お國淨瑠璃「菅原御臺所花見の段」鈴木幸龍
▼後二、〇〇　小學生の時間（高等科）音樂の鑑賞「器樂の合奏」井上武士
▼後三、〇〇　婦人の時間「支那の正月」中野江漢
▼後五、三〇　趣味講演「舊幕時代の金銀鑑定法と通貨について」盛岡高工學校長工學博士石原富松
▼後六、〇〇　子供の時間　ラヂオスケッチ「銃持たぬ戰士」野戰郵便局
▼後七、二〇　郷土に寄する言葉（錄音）大日本硫安肥料會社專務取締役苦米地義三
▼後七、三〇　國民歌謠
▼後七、四〇　講演「幕末における大陸發展思想」經濟學博士本庄榮治郎
▼後八、〇〇　連續講談「寛永三馬術」大島伯鶴
▼後八、三〇　ラヂオ時局讀本「休會明けの議會を繞りて」下
▼後八、四〇　對支放送

眼科　吉田醫院
平市紺屋町
電話八六番

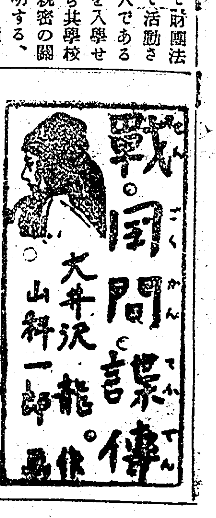
所員募集
一、學力　中學卒業程度
一、年齡　廿五才迄
一、待遇　採用當初より一ヶ月卅五圓以内
一、特典　入所後は無試驗にて技術練習所に入所し得る特典あり
一、人員　五名以内
右至急募集す
中央氣象臺小名濱測候所

外科内臟外科
X光線科
院長　安齋徹
―新設―
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四五七番

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へるおちのよい
㊎マルミ粉末石鹸
製造元　平市材木町十一番地
電話（呼）四〇八番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

株式先高必至
現物の買時
優良株御案内申上げます。
株式日報御申越次第御送付致します。
有價證券
賣物問屋　富岡靖介商店
平市四丁目（電話一九一番）


戰國間諜傳
大井沢一龍作
山科一郎畫

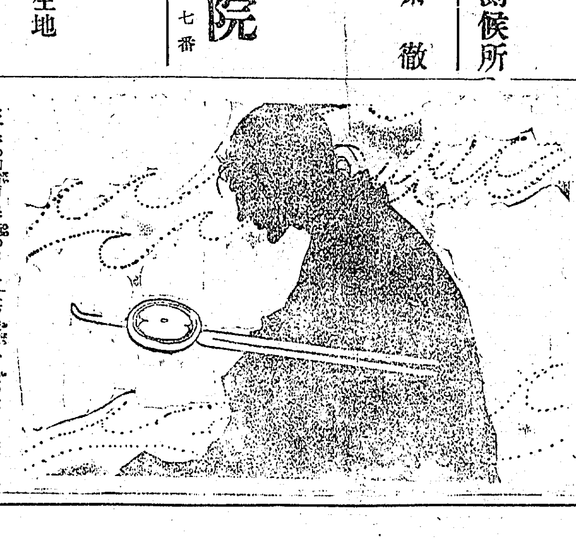
戰國間諜傳

大井沢一龍作　山科一郎畫

助命願（四）

母にうながされて千姫の云つた願ひは、次の樣な意味のものであつた。それは[illegible]の遺骸である豊家一門の菩提を弔ふために一寺を建立すると云ふことで、[illegible]の願がなくとも千姫自身、ようからそのことが氣にかゝつて、願ひ出やうと何度も思つたことであつた。しかし、一度二度ならず、自分の必死の嘆願である、彼の助命願ひも、一度も聞き屆けられず、徒らに無念の涙をのまされてゐることを思ふと、その願ひの果たされる望みはないと、自らの心に云ひきかせて、あきらめてゐたことであつた。が一度び姫の[illegible]を見てその願ひはまたもや燃え立ち初めて[illegible]い決心の元に立たされたのだつた。

「さ、それは……」



さすがの御台所も千姫の申出をきいて、とみには返事が云へなかつた。

「それはどうしたと申すのでございませうか、妾も縁あつて豊臣家へ縁づいた者なれば、云はゞ豊臣家の一人でございます。そのまゝである内大臣秀頼公様御母淀君様方の御遺骸を弔ふのは妾のつとめでもありますし、お母上様にとつても何れも血を分けた方許りのこと、それを御しぶり遊ばすのは、餘りと云へば餘りな御方とお怨み申し上げまする」

姫が思ひ切つて云ひ出せば御台所はサッと顔色を變へた。痛いところをさわられたからである。

だから此のことは母君よりも父上にとくと御願ひして下さるやうにと熱心にかきに説いた。

どうせそんな願ひはいくら姫が申出ても聞き屆けられないことは御台所には分つてゐるが、こゝで姫にそう云つたところで聞きわけるものでもない。それに姫にも聞いて貰はねばならぬこともあるので、御台所は

「お父上に、とくと申上げて見まする」

と約束された。

ホッと、姫の顔色をして、千姫は今度は靜かな口調でもう一つの願ひを申出た。

それは[illegible]を助けてくれと云ふことであつた。彼女のこれまでにしたことをいろ／＼話してきかせた。御台所もいたくそれをきいて感歎された。

「元々恩義のためにいたしましたる事、罪人とは申すものではござりませぬ。母上様の御力でどうぞ御助け下さりまして、妾に下しおかれますやうに――」

ひたすら懇願した。

きけばかよわき女性のこと、必ず／＼御願ひしてみると、とんどは自ら進んで引きうけてくれた。

千姫に御台所が聞いて貰はねばならぬことと云ふのは彼女を一日も早く他家へ縁づけることであつた。未亡人と云つても未だ若くて美しいこの姫を、何時までも獨りにおいておくことは許されぬことであつた。

しかし本人が何んと云つてもガンとして受けつけない。と云つて何時までもそのまゝ放つておけない。だから殿にさせておいて、今度はこつちからの云ひ分を、うんと云はせる魂膽であつた。

その頃數々の縁談が起つてゐたが何れも姫の首が横にふられて駄目になつてゐた。その中の一つに彼の坂崎出羽守の物語りがある。

あれは大阪城中から姫を助け出したら褒美として姫をあたへると家康が約束したので坂崎出羽守が、勇敢にも火炎の中にとび込んで、姫を抱て助け出した。その時に顔に大火傷を負つたので

「いざ御約束を――」

と家康の御前に出て待つたが、千姫が彼の顔を見て

「死んでもいやぢや――」

と強い拒絶をして聞き入れぬので、孫可愛さの餘り、家康は約束を履行しなかつた。其のために悶着が起つたと云ふ話である。

女中難の教訓

上野シゲ子

人的資源の不足は家庭以外社會の各層に及び來つた現象であるが、私共の家庭をおびやかす女中難を主婦はいかに處置してゆくべきであらうか。昔からの美風としてきた主從關係は今はもう影をひそめ、娘たちの心身はヂミに働く家庭内の仕事から、事務員や女店員、或は軍需工場へとひきぬかれてゆきつゝある。

かうなつた原因は、私ども使ひ手の心のもち方や、使ひ方の拙劣さして世相の還り變りにあることは否めない。とにかく女中は家庭にゐつかなくなつた。今となつては女中をさがすことよりも一歩進んで從來の女中制度の後に來るものは何がよいであらうかをトクと吟味考察し、且つその實行にとりかゝる方が、どれほど聰明かわからない。

私は女中なしの生活に對する私見をご參考までに申し上げたい。

一、主婦も家族ももつとく働かねばならない。そしてふだんは決して他人をたよりにせぬ決心をすること。

二、子供の勤勞教育の家庭の實際生活に應用すること

三、ピースワーク制、時間勞働を採用すること。卽ち手にあまる洗濯、洗張のおかみさんに日と時間とをきめてたのむ。或は洗濯屋に出す。ふとんの手入れは派出婦を數日雇つて整理する。縫物は授産場その他を利用する。

かくすれば、物質的には經濟であり、精神的にもいろいろの利益が出てくる。しかも一家の經濟はやがてお國への御奉公となり、娘たちは國家に從事して國産品の作製にいそしむことができる。これからは家庭生活の科學的、能率的たてなほしのために主婦は積極的に頭を使はねばならない。共同炊事の問題なども婦人、殊に主婦がも少しまじめに研究してよい課題ではあるまいか

醸造試驗所の提唱

家庭資源の愛護に お醤油も一ト役かひます

無駄の排除、物資の節約は事變以來久しくさけばれてゐますがこれは長期戰下を通じて最後まで、私共の實行しなくてはならぬことです、しかし、ずいぶん考へぬいたやうでも未だ排除し切れない無駄があるものです、醸造試驗所の松本[illegible]先生は、かねて研究中のお醤油の作り方について注意をひき各家庭の協力をのぞみました、その節約法といふのは次のやうなものです……

醸造試驗所では、各醸造家の連絡をとつたり指導をしてゐますがつきよう醸造家は醸造家の、そのものを作つてゐるものですから何か新しい節約の方法があつて需要家である御家庭の家が協力して下さらなければ、たとへ徳用な方法があつても作ることはできないのです

現在大部分の御家庭では、かける醤油と煮物醤油とを區別しないでお使ひになつてゐるやうに思はれますが

…これは　私共醤油製作の立場から云ふと大へん材料が損なのです、また材料が損であるばかりでなく、味の方も御損をなさつてゐることゝなるのです

まづ第一にかける醤油はどうして材料的に徳用であるかといふとかけ醤油はかけ醤油として最初から作れば、從來一石の大豆から一石一斗位しかとれなかつたものが同じざい料から一石五斗以上できることゝなるのです、この點ざい料に於て卅パーセント乃至四十パーセント徳なのです

しかもこのざい料となる大豆は一ケ年九十萬トン輸入されるのですがこれが食料ばかりではなく種々の

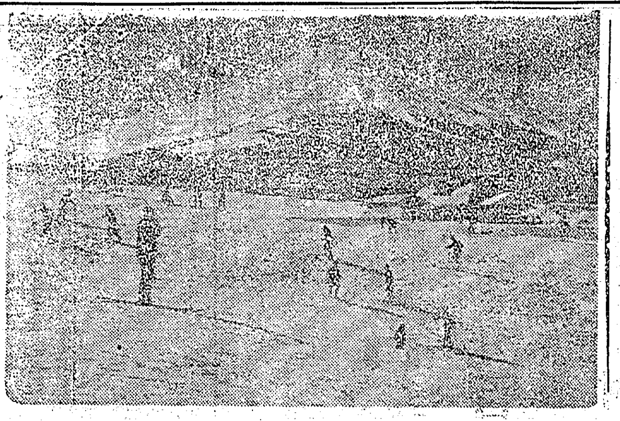
…工業の　方へも使はれますので、どうしても醤油の方は不そくがちの傾向ができてくる事と思ひます、從つてこの際御家庭協力の許に徳用のかけ醤油製造のものをおすゝめしたいと思ふのです

かけ醤油といふと、どろつとした山口縣の刺身醤油とか、長崎縣方で造つてゐるうす口醤油や、京阪地方の白しよう油といつた物が考へられますが、私どもの考へてゐるのは價段もやすくうすくて美味でたべやすいといふ三拍子もそろつたもので云はばしよう油とソースの合の子のやうなものです、もちろん

…香料も　入り防腐劑も加へられてあるものです

かういつたものは、もう私どもの研究室で實現されてゐるのですから、節約の見地から御家庭の[illegible]心を促したいと思ひます

奥さまによると、かけしよう油と煮物しよう油とを別にすると使ふのに面倒だとおつしやる方もありますが、そんなこともないと思ひます、しよう油の[illegible]不そくがちですが、これは[illegible]買だめの利かないものですから醸造法による節約不そく[illegible]て節約法も考へてをります



一[illegible]にて

……小ばなし……

「四十七人乘りの旅客機が出きたさうだが初飛行はいつだらう」

「知れたこと、十二月十四日の夜中さ」

外出時の注意

つめたい空氣をさけて

成可く戶外散歩

◇赤ちやんを連れて外出しなければならない時はぜひ晝間にするやうにいたしたいものです。赤ちやんをつれて劇場などへ行かれるお母さんを見受けますが、これは自分の慰安のために赤ちやんの健康を犠牲にするものです、赤ちやんを育てる間ぐらいそんな娯樂を取らなくとも他に郊外なり遊園地なりへ行くなどして慰安の方法はいくらもあるはづです。

◇夏の外出にはおむつの替へのほかに肌着の替へも一、二枚は用意した方がよいと思ひます。汗が出たまゝで長くおけば汗疹ができますし、またそのまゝかぜにあたれば風邪をひくこともあります。

◇冬のさむい時の外出には十分に着物を着せることはもちろんですが、その他「ガーゼ」二枚位のマスクを（ゆるくして）かけさせるか「ベール」のやうなものを垂らせるかした方がよい、これはつめたい空氣に直接長くあてることは赤ちやんには少し無理と思はれるからです。

◇氣候のよい時とか、暖い時には朝夕の涼しい時などを見て赤ちやんは小さい時から戶外散歩をどこにはなるべく毎日つれ出した方がよい、極く小さい間は十分か十五分くらゐとし大きくなるにしたがつて一時間でも二時間でもよいのです。散歩やちよつとした外出に乳母車を使用されるのは悪くありません。赤ちやんの目に直接日光が射し込まないやうな位置にかすなり座らせていただきたいのであります。

たんす

若返り法

平常使はない簞笥なら、唐草模様のゆたんをかけてありますから汚れることもありませんが毎日のやうに出し入れする抽斗はよほど氣をつけてゐても、いつの間にか汚點のつくものです。このしみは、酢にひたした布で輕くこすると大抵とれますから

その上を布で蠟をつゝんでみがくと品のよい光澤がでるもので、脱脂綿にキハツ油を含ませて輕く拭くのも一方法です。

そしてそのあとへ下駄屋や大工さんの使ふトノコ（砥の粉）をうすく水にとかして、やわらかい布につけて擦りつけその上を空拭きすると元どほりきれいになります。

煙草で染つた指

奇麗に除るには

兩切りのタバコをすひ口なしで吸つてゐると、ニコチンのために指先が黄色く染まつて見た眼にも見苦るしく不愉快な感じを與へるものですがこれは石けんで洗つても容易に落ちません。でこれを除く方法としては

○……まづアルテールでもよし瀨戶のふた物でもよしそのなかへオキシフルをしめした脱脂綿をいれ、それにアムモニアを五六滴落したものを常に用意しておき、時々ゆびさきを拭くやうにすればアムモニアのアルカリ性のために他の酸類と付いてゐたニコチンが分離しさらにオキシフルで分解されてしまふので、ニコチンの色素や臭氣がのぞかれますし、同時に消毒もかねることができます。

○……この消毒器にいれるのは脱脂綿に便利なためですが、夜分寢る時々家で行ふには、藥品につけた綿が蒸發しないやうに瀨戶の小さなふた物か、あるひは藥品の小ビン等にいれておいてもよいのです

硝子は熱を奪ふ

防寒工作の知識

外部の窓ガラス張りは晴天の日中は光線が室内一杯にはいつて暖を採るのには申し分ないのですが、くもりの日や夜、外の氣溫が下つたときはこの逆に室内から熱がどんく逃げだしてゆくので障子その他紙、布の障子、ふすまにくらべて[illegible]熱が逃げ[illegible]いことになります

なぜガラスは冷える

なぜガラスは寒に室内が冷えるかと申しますと、ガラスの熱傳導率は他の物體にくらべてはるかに大きいからなのです、卽ち、木一、ガラス四、八、ガラス二枚二、三、布〇、[illegible]（但し[illegible]）[illegible]紙[illegible]、門八[illegible]

ガラス戶の窓も大きな欠點は戶と戶の間の隙間です、このすき間から熱量は二分の一になり、隙間のときはもちろんこれ以下になるので建具屋りからしのびこむかぜもなかく馬鹿にならないわけです、で

これに對する簡單な工作としては戶當りに戶決り、ひきちがひに召合せがない場合は、押緣として細長い木（建具屋さんで分けてもらひます）またはフェルト（家物店か百貨店の家具部で販賣しているもの）を付け戶の合ふ個所はネヂでピタリと合せ一枚々々のガラス板のすき間はパテでふさぎます。また桟、敷居のすき間には同じく細いフエルトか木を打ち通すか日本紙を貼ります、雨戶障子などの明るい感じのするものを貼ることも保溫と同時に室に變化を付ける事にもなりませう貼つた後の換氣はらん間の開閉によるか、なかつたら天井の一隅の窓を開閉するやうにのこして置けば不衛生になる心配はありません

時局小説

驀進

（北國映演上映）

士別[illegible]樹

北野傳 畫

第六十九回

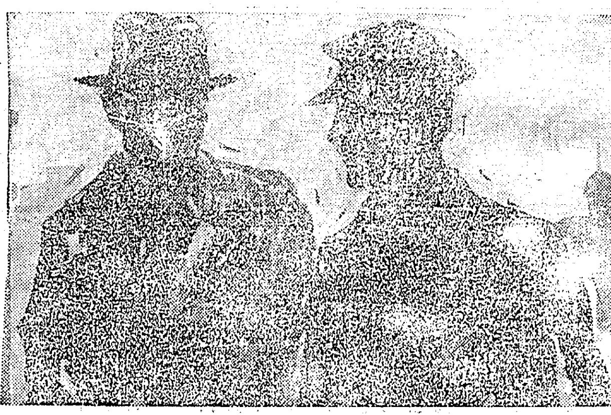
喜びの家（廿二）

北上敬一の驀進行きが、[illegible]新聞に發表されると、鍛冶の木村が眞ッ先にとんで來た。

『何も彼もが上々おやないか！』

木村は人前ならぬ喜びをもつて叫んだ。

方々からの祝電もあつたが、その中には相變らず双葉のもあつた。しかしもう、敬一の心からは、双葉の影も消え去つたのであらうか、美佐子が、勝利を喚び出した笑の微笑にも、敬一の心は動かなかつたやうであつた。



滯在日數は僅か廿日間ではあるが、何の用意もない敬一は面食らつたのである。それには美佐子も同行することになり、かなりあはたゞしいものであつた。

「お母さん、からだに氣をつけて下さい」

敬一は、出發間際のプラットホームで、心から母に云つた。

新聞社の寫眞班が焚くフラッシュの中に藤澤と喜びに滿たされた母子が、けいけんな姿で立つてゐた。

新調の、アストラカンのオーバに、黑の帽子を無雜作に冠つた、背の高い美佐子の姿が、一きは目立つて見えた。

その時は丁度驛構内は、出征兵士を送る人々で雜踏してゐた。

萬歲を呼び合ふ聲！聲！軍歌の合唱の聲！それは一昨年前も今日も變らない風景であつた。力と熱の籠らない風景であつた。

汽車が動き出す時、双葉らしい姿がチラツと美佐子の目に映つたが、ハツキリとは見えなかつた。

何か、ハラハラするやうな感じが、美佐子の胸を激しく打つのであつた。美佐子は、勝利と喜びとを兼ねた敬一の、この有頂天のやうに、敬一と美佐子とを乗せて、限りなく續くやうに、心の中に祈つた。

『美佐ちやん、よく一緒に行くになれたね』

敬一は美佐子の横顔を見た。

『え、何處だつて行きますわ』

美佐子は、いくらか氣まり悪であつたが、包みきれない嬉しさに、微笑があふれて見えた。

『僕はいいことはない？』

『僕はいいことな、かないわ』

『隨分大膽だなあ』

『大膽にしていたゞいたのだわ』

『ふーん？』

敬一は、大膽にしていたゞいたのだといふ意味を添へた。

科學のことならば、字引と云はれる程の明確さをもちながら、日常の常識を聞かされると、なかなか鈍感にうとい敬一である。

美佐子の云つたことを、人事のやうに聞き流すと、敬一は滿洲地圖を擴げて、滿洲地方の風俗や、都市を觀察にかゝつた。

『美佐ちやん、滿山は何處にゐるかなア』

敬一がさう云ふと、美佐子も地圖を前に突き出して、地圖の上に目を落した。敬一の顔と、美佐子の顔とが、かすかにふれ合ひ、敬一の鼻の匂ひが、美佐子の胸のしんまで浸みて行つた。

敬一の、研究熱心な指先が、釜山から京城、新京、滿州、奉天、撫順と地圖の上を這いて行つた。美佐子は、敬一の呼吸を直ぐ耳元に感じながら、からだ中が熱くなるのを覺えた。

敬一の指が次第に見えなくなり、たゞ日の丸だけが大きくなつて、何時とはなく、美佐子の頰が敬一の胸にピッタリ寄り添いていた。

干やなぎ
と〃美味しい〃
みりんぼし
『鰹節製造販賣』
志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）
日本生命平代理店

かぜ せき 共通散「アコー」
本品感冒、頭痛、解熱又は流行性感冒肺炎、喘息、急性、慢性急管支炎に效ける乾咳性の劇甚なる咳嗽發作に對し又子供には小兒に於ける氣管支かたる、かたる性肺炎、肺炎、肋膜炎、咽喉かたる、百日咳等の鎮咳痛解熱劑として効あり特に子供達の爲めに小兒用があります。
正價 三十錢、五十錢、一圓
平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）
製劑發賣元 阿康藥局
責任者藥劑師 明治藥學士 阿部康雄
電話四四番 振替東京三〇〇六五番

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目 三井タクシー 電六八五番

產科 婦人科 專門
平市南町 根本醫院
（入院隨時） 【電話三四番】

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目 電話九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

メガネは！
平市二丁目 玉屋

一、產婦人科
一、外科一般
一、花柳病科
小名濱町小學校前（元土井醫院跡）
黑澤醫院
醫學士 黑澤廣 電話四五番

冬物は
是非！
當店から
（在庫豐富）
玉屋洋品店
平 田町通電話六五六番

毎度有難う御座います
パン食普及の時代
……自慢の食パン召し上がれ！……
榮養パン バターロール
甘コッペ チョコレートロール
野菜サラダパン クリームロール
カレーパン・カツパン・黑パン
ベーカリー 東京堂
平市搔槌小路（電話一〇八番）

「旨い」と一言にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
平市仲田町
日本料理 山茶莊 電五〇二

科外生徒募集
一、邦文タイプライター科
◇時代の尖端を行く昭和婦人の職業
入學は毎月 隨時
卒業期間 四ケ月（高女卒程度） 十ケ月（小高卒程度）
◇卒業者の就職紹介は各方面と連絡をとり斡旋致します。
一、洋裁科
入學は毎月 隨時
卒業期間 本科 一ケ年 速成科 六ケ月
文部大臣認可 平陽女學校（平市 電話四四五番）

眞冬の味覺
（とんかつ專門の店）
興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します。
平市仲田町（電話四六五）
かの家

歯科口腔外科
レントゲン科
院長 東京歯科醫學士 原精一
電話三一番
平市土橋通 原歯科醫院

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四 電話六〇六番